

ULTIMATE HIGH FIDELITY STEREO COMPONENTS

LUXMAN

LUX CORPORATION, JAPAN



# STEREO POWER AMPLIFIER

分化独立のコースをたどって発展をとげてきたコンポーネントの世界ですから、アンプにおいても、オーソドックスを求めるにすれば、やはり、独立型でなければなりません。ラックスにお



## M-6000 トランジスタ・パワーアンプ

300W + 300Wの大出力を全段直結ピュア・コンプリメンタリー回路(出力段はトリブル・パラレルPP接続)で採り出しているところに、このアンプの存在意義があります。この特徴は、いざれ一般化されるでしょうが、そのときには改めて、意匠と仕上げ、そして音質が注目されるでしょう。この一見大きすぎる形体も、実は驚異的にコンパクトであることが認識されるにちがいありません。

- 構成／トランジスタ(158), ツエナ・ダイオード(10), パリスタ(8), ダイオード(74), ホットセル(2), LED(18), SCR(1) ●連続実効出力／300W + 300W(8Ω, 両ch同時, 片ch動作とも) ●全高調波歪率／0.05%以下(8Ω, 300W) ●混変調歪率／0.05%以下(8Ω, 300W, 60:7KHz = 4:1) ●出力帯域幅／10～40,000Hz(0.1%, -3dB)
- 入力感度／1.25V ●入力インピーダンス／75kΩ ●SN比／100dB以上 ●付属装置／出力表示用VUメータ&ピークインジケータ、メータ感度切換、入力レベルセット、スピーカー保護用DCドリフト検出回路、アンプ保護用過電流検出回路、アンプ保護用ヒートシンク温度検出回路、パワーTr.用ピューズ溶検出回路ほか
- 外形寸法／570(幅)×425(奥行)×220(高)mm ●重量／52kg

## M-4000 トランジスタ・パワーアンプ

M-6000の姉妹機ですから、もちろん同じ設計趣旨で開発されています。180W + 180Wの大出力をトリブルPP接続・全段直結ピュア・コンプリメンタリー回路で採り出しています。標準的な特性はもちろんのこと、それ以外のデータをもより深く追求し、技術的な裏付けをとりながら、一つ一つのパーツにまで検討を加え、さらに音質を向上させているわけです。保護回路にも万全を期しています。

- 構成／トランジスタ(120), パリスタ(6), LED(15), ツエナ・ダイオード(5), ダイオード(70) ●連続実効出力／180W + 180W(8Ω, 両ch同時, 片ch動作とも) ●全高調波歪率／0.02%以下(8Ω, 180W) ●混変調歪率／0.02%以下(8Ω, 180W, 60Hz : 7KHz = 4:1) ●出力帯域幅／5Hz～30,000Hz(0.02%, -1dB) ●入力感度／1.0V ●入力インピーダンス／50kΩ ●SN比／106dB以上 ●付属装置／出力表示用VUメータ&ピークインジケータ、メータ感度切換、入力レベルセット、スピーカー保護用DCドリフト検出回路、アンプ保護用過電流検出回路ほか
- 外形寸法／485(幅)×390(奥行)×175(高)mm ●重量／30kg

いては、昭和の初期にすでに、独立した本格的なパワーアンプとして、LUX-753を発表しています。

ラックスの力量と個性がもつともよく発揮されているのが、このジャンルです。ここでは、トランジスタ技術の粋を集めたM-6000をはじめとするパワーアンプ群と自慢のトランスを存分に駆使した管球式パワーアンプが張り合っています。それぞれによさがあり、どちらを選ぶかは、その人のオーディオに対する考え方によるのでしょうか。



## M-2000 トランジスタ・パワーアンプ

M-6000の成果を生かして開発され、パラレルPP接続・全段直結ビュア・コンプリメンタリー回路で、120W+120Wの出力を採り出したパワーアンプです。平均出力表示のVUメーター、ピーク出力表示のピークインジケーター、本格的アッテネーターと同型のディテント・ボリューム採用の入力レベルセットなど、機能面でも遜色ありません。高度な技術と斬新なアイデアによって仕上げられています。

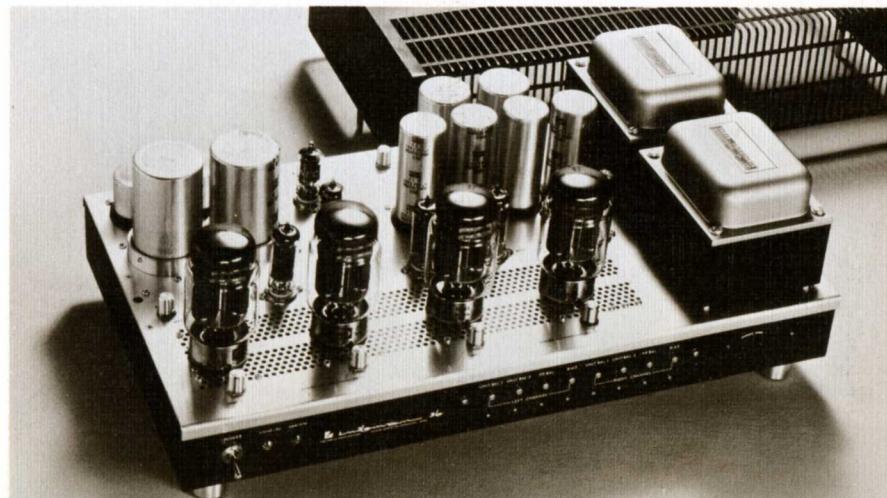
●構成／トランジスタ(102)、パリスタ(8)、ツエナ・ダイオード(5)、LED(15)、ダイオード(74) ●連続実効出力／120W+120W(8Ω,両ch同時動作時) ●全高調波歪率／0.02%以下(8Ω, 120W) ●混変調歪率／0.02%以下(8Ω, 120W, 60Hz : 7kHz = 4:1) ●出力帯域幅／5Hz～50,000Hz(0.05%, -3dB) ●入力感度／800mV ●入カインピーダンス／50kΩ ●SN比／100dB以上 ●付属装置／出力表示用VUメーター&ピークインジケーター、メータ感度切換、入力レベルセット、スピーカー保護用DCドリフト検出回路、アンプ保護用過電流検出回路ほか ●外形寸法／485(幅) × 295(奥行) × 175(高)mm ●重量／18kg



## M-1600 トランジスタ・パワーアンプ

これはまた、まぎれもないラックスのパワーアンプです。全段直結ビュア・コンプリメンタリー回路によって、80W+80Wの出力を採り出しています。出力段には余裕を見込んだ大容量のパワートランジスターを使っています。大きく見開いたメーターのゆったりとした指針の動きが、このアンプの優雅な性格を象徴しています。外装はローズウッド木箱です。

●連続実効出力／80W+80W(8Ω,両ch同時動作) ●全高調波歪率／0.03%以下(8Ω, 80W) ●混変調歪率／0.03%以下(8Ω, 80W, 60Hz : 7kHz = 4:1) ●出力帯域幅／10～50,000Hz(-3dB, 0.1%) ●周波数特性／10～50,000Hz(-1dB以内) ●入力感度／700mV ●入カインピーダンス／33kΩ ●残留雑音／0.5mV以下 ●付属装置／ピーク検出形VUメーター、入力レベルセット、2系統スピーカー端子およびスピーカー切換スイッチ ●外形寸法／476(幅) × 257(奥行) × 182(高)mm ●重量／16.5kg

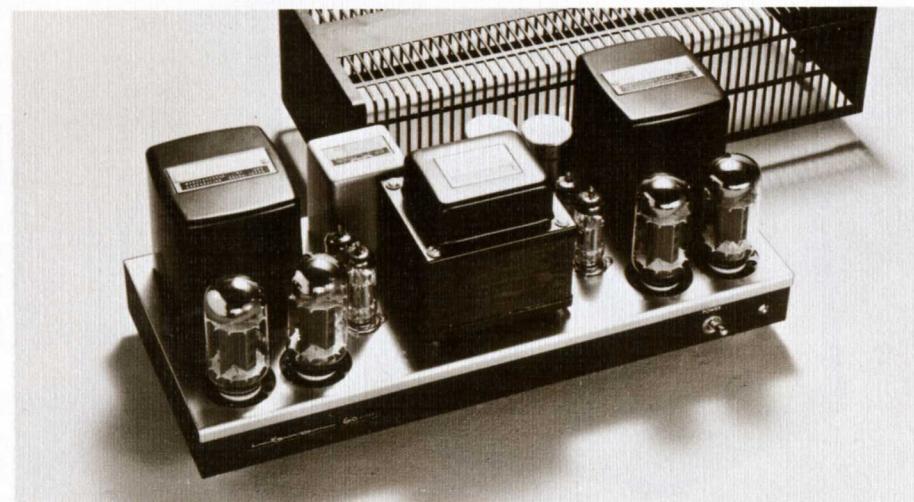


## MQ36 管球式 パワーアンプ

切札ともいえる出力トランジストをなげうってOTLアンプに挑戦したいきさつは、いま思い出しても懐かしいかぎりです。OTLを売り物にした初期のトランジスタ攻勢への応酬だったわけですが、そうした時代背景がなければ、この傑作も生まれなかつたでしょう。かれこれ10年近くになりますが、このアンプの真価はいよいよ冴えて、愛好家の煩惱をかきたてています。

●回路方式／管球式SEPP-OTL回路 ●使用真空管／6336A(4), 6CL6(4), 6267(2), DR-130N(1) ●連続実効出力／25W+25W(16Ω), 35W+35W(32Ω) ●全高調波歪率／0.13%以下(16Ω, 可聴全帯域)、0.1%以下(32Ω, 可聴全帯域) ●周波数特性／1.5～200,000Hz(±1dB以内, 16Ω負荷) ●入力感度／800mV(16Ω, 最大出力時) ●最適負荷／約50Ω(最大出力40W+40W) ●残留雑音／1mV以下(入力レベルセット最大) ●ダンピング・ファクタ／約65(16Ω) ●付属装置／動作チェックボタン、メーターほか ●外形寸法／505(幅) × 280(奥行) × 192(高)mm ●重量／18.7kg

# STEREO POWER AMPLIFIER



## MQ80 管球式 パワーアンプ

MQ36で一躍有名になった6336Aのブツシユブル、双3極管ですから、チャンネル当たり1本の計2本、ドライバ一段はカソードフォロアの直結で、出力段はクロスシャント動作になっています。出力トランスにも、本機のために開発したバイファイラ巻きプレート・カソード分割型を採用しています。OTLとはまたちがつた究極の管球アンプです。

- 回路方式／クロスシャントPP回路 ●使用真空管／6336A(2), 12BH7A(2), 6AQ8(2), 6267(2) ●連続実効出力／40W+40W(8Ω片ch動作) ●全高調波歪率／0.5%以下 ●周波数特性／10~50,000Hz(-1dB以内) ●入力感度／800mV(8Ω, 40W) ●入力インピーダンス／80KΩ ●残留雑音／0.5mV以下 ●ダンピングファクタ／約15(8Ω) ●負荷インピーダンス／4Ω, 8Ω, 16Ω ●付属装置／動作チェック用チップジャックほか ●外形寸法／435(幅)×260(奥行)×170(高)mm ●重量／17kg

## MQ60Custom 管球式 パワーアンプ

きわめて野心的な製品です。アンプにおける特性と音質の関係にメスを入れようというのが設計の狙いですが、このために、NFBによって一挙に特性の辻妻を合わせるという、現代風の手法を採っています。いわゆる無帰還アンプです。方向は異りますが、これもまたアンプ技術の極致です。しかし、その成果は数値には現われませんから、耳の判断にかかっています。

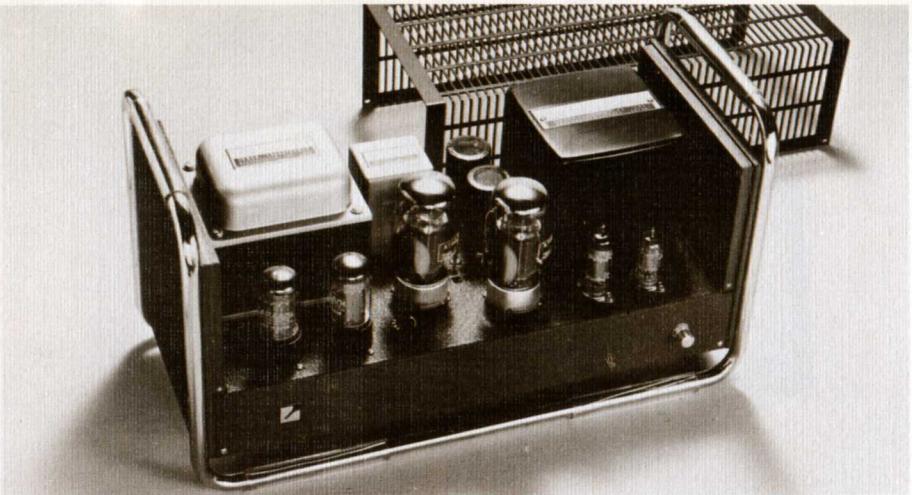
- 回路方式／無帰還方式 ●使用真空管／50CA10(4), 12BH7A(2), 6267(2) ●連続実効出力／25W+25W(4Ω, 8Ω, 16Ω) ●全高調波歪率／0.6%以下(定格出力時) ●周波数特性／20~30,000Hz(±1dB) ●入力感度／400mV(定格出力時) ●入力インピーダンス／250KΩ ●残留雑音／0.7mV以下 ●ダンピング・ファクタ／約2(1kHz) ●負荷インピーダンス／4Ω, 8Ω, 16Ω ●付属装置／入力レベルセット、負荷インピーダンス切換 ●外形寸法／410(幅)×205(奥行)×160(高)mm ●重量／14kg

## MQ60 管球式 パワーアンプ

出力管は3極管の50CA10、出力トランスはラックスのOY15型。これはSQ38FD/IIでおなじみのコンビですが、その音質には定評があります。回路構成はムラード型を基本としたもので、位相反転が6AQ8、初段が6267の3結、オーソドックスなパワーアンプで、みるからに充実した製品ですが、やはり、トランスの存在が光っています。これはラックスの独壇上です。

- 回路方式／ムラード形回路 ●使用真空管／50CA10(4), 6DT8/6AQ8(2), 6267(2) ●連続実効出力／30W+30W(4Ω, 8Ω, 16Ω) ●全高調波歪率／0.3%以下(定格出力時) ●周波数特性／15~60,000Hz(-1dB以内) ●入力感度／850mV(定格出力時) ●入力インピーダンス／250KΩ ●残留雑音／0.7mV以下 ●ダンピング・ファクタ／約15(1kHz) ●負荷インピーダンス／4Ω, 8Ω, 16Ω ●付属装置／入力レベルセットほか ●外形寸法／410(幅)×205(奥行)×160(高)mm ●重量／13.8kg

# MONORAL POWER AMPLIFIER



# STEREO CONTROL CENTER

品種からみると現在のところも機種ですが、コントロールアンプはラックスがもっとも情熱を傾向している分野です。これはC-1000やCL35/IIIの出来栄えを確かめていただくことで、ある程度、理解していただけるはずです。トランジスター式では新しい回路に意欲的に取り組み、完成度の高い仕上りをみせています。また、管球式では、カのMcIntosh C-22型もMarantz7型も反省の材料として利用され、そこから一步進んだ仕上りをみせています。



## MB88 管球式 モノーラルパワーアンプ

本機の前身はモノーラル時代に開発されたMB8Aですが、ここでは出力管がKT-88に改められています。プロ用途に使われる機会が多く、一般にはあまり知られていませんが、アンプとしての実力は桁はずれて、ラックスのアンプ技術を示した製品として高く評価されています。今日のような大出力時代には改めて脚光を浴びるのではないかと思われます。

●回路方式／マルチNF方式 ●使用真空管／KT-88(2), 12BH7A(1), 12AU7(1), 5AR4(2) ●連続実効出力／85W(55Hz) ●全高調波歪率／0.5%以下(85W) ●周波数特性／20~20,000Hz(-0.5dB以内) ●NF量／27dB(カソードNF6dB, メジャーNF21dB) ●入力感度／900mV(85W, 1kHz) ●入力インピーダンス／100kΩ ●SN比／90dB以上 ●負荷インピーダンス／4Ω, 8Ω, 16Ω ●付属装置／入力レベルセレクト ●外形寸法／445(幅)×190(奥行)×246(高)mm ●重量／17kg

## C-1000 トランジスタ・コントロールセンター

本当の意味の高級感を備えたコントロールセンター、つまりプリアンプです。回路構成にも、使用部材にも、ファンクションにも、そしてスタイルにも、従来のラックスらしさを踏まえたうえで、新境地を開いています。たとえば、トランジスターの数は幾倍力になっていますが、これは普通なら抵抗で間に合わせるところをトランジスターで駆っているわけで、信号の通路はむしろ単純化されているといった具合です。

●構成／トランジスタ(92), ダイオード(59) ●周波数特性／2~80,000Hz(-0.5dB) ●全高調波歪率／0.006%以下(rec.out:2V), 0.007%以下(pre.out:2V) ●出力電圧／定格1V, 最大13V以上 ●出力インピーダンス／300Ω ●入力感度／phono-1:2.2.5mV(±5dB可変), tuner:aux-1:150mV(可変), aux-2:150mV ●SN比／phono:65dB以上, tuner:aux:83dB以上 ●トーンコントロール／LUX方式NF型渦曲点切換付 ●付属装置／電子式タッチミュート回路, リニアアイコライザ, 高低各フィルタ, ローフースト回路, 入力感度調整(phono)ほか ●外形寸法／485(幅)×245(奥行)×175(高)mm ●重量／10kg

## C-1010 トランジスタ・コントロールセンター

これはC-1000に続くもので、基本的な回路構成、ファンクション、スタイルなどほとんど同じです。すべての段にDCアンプに近い、いわゆるオペレーションアンプ的な回路構成を採用して、一番問題となる高域の諸特性の改善を図っています。もちろん、実際に測定できる特性の改善とともに、それ以外の特性を技術的裏付けをしながら追求して仕上げています。これはすぐれた音質の実現に寄与しています。

●構成／トランジスタ(66), ダイオード(39) ●周波数特性／2~80,000Hz(-0.5dB) ●全高調波歪率／0.006%以下(rec.out:2V), 0.007%以下(pre.out:2V) ●出力電圧／定格1V, 最大13V以上 ●出力インピーダンス／300Ω ●入力感度／phono-1:2.2.5mV(±5dB可変), tuner:150mV(可変), aux-1:2:150mV ●SN比／phono:65dB以上, tuner:aux:83dB以上 ●トーンコントロール／LUX方式NF型渦曲点切換付 ●付属装置／PHONO入力感度調整, PHONO入力インピーダンス調整, リニアアイコライザ, 高低各フィルタ回路ほか ●外形寸法／485(幅)×245(奥行)×175(高)mm ●重量／10kg

# STEREO CONTROL CENTER



## CL350 トランジスタ・コントロールセンター

これはトランジスターによるコントロールアンプの第1作。仕上げというよりも、むしろ改革に力を入れた製品です。おののの入力端子に応じて回路を独立させ、さらにトーンコントロール段、フィルタ一段などもそれぞれ独立させ、信号経路の単純化を図っています。この手法は、遊んでいる回路が多いわけでも、一見無駄なようですが、音質向上のためには良策です。

- 構成／シリコン・トランジスタ(4)、ダイオード(8)・周波数特性／10～50,000Hz(-1dB)・全高調波歪率／0.03%以下(出力1V)
- 出力電圧／最大7V(歪率0.3%)
- 出力インピーダンス／100Ω
- 入力感度／phono-1～2;2mV, aux-1～3;110mV(可変), aux-2;110mV, mic;2.3mV
- SN比／phono;63dB以上, aux;80dB以上, mic;59dB以上
- トーンコントロール／LUX方式NF型適曲点切換付
- 付属装置／高低各フィルタ、ローフリーエンサー・トリマ、アッテネータ、テープモニタ回路、テープダビング回路ほか

## CL30 管球式 コントロールセンター

桁はずれのキットとして話題になつたA3400を完成品化した製品。もちろん、ただキットを組み立てて発売したというのではなく、一部手を加えた箇所もあります。しかし、発売の動機は、どうしてもキットでは手が出ないので完成品が欲しいという人のためにということです。ちょっと気になるのは、CL35/IIIとの関係ですが、これはもう、ご自分で比較して頂くよりありません。

- 使用真空管／12A×7(6), 12AU7(1)・出力電圧／定格2V(レベル+6dB位置), 最大15V(歪率0.3%)
- 出力インピーダンス／550Ω
- 全高調波歪率／0.06%以下(出力2V)
- 周波数特性／15～35,000Hz(-1dB以内)
- 入力感度／phono-1;2mV, 4mV, 10mV(切換), phono-2;2mV, aux-1;170mV, tuner, aux-2;170mV(レベルセレクタ付)
- SN比／phono;64dB, tuner, aux;77dB
- トーンコントロール／LUX方式NF型適曲点切換付
- 付属装置／リニア・イコライザ、高低各フィルタ、マイクアンプ回路ほか

## CL35 / III 管球式 コントロールセンター

CL35型のニューモデル、マイナーチェンジです。例によって、キメの細かい改良を加えていますが、ほとんど表面からはわかりません。コントロールアンプとして当然のことですが、ボリューム関係にも精度の高い最新型を導入しました。カップリング・コンテンサにフィルム型を採用したこと、パネルの色調とツマミの形を少し変えたこと、などは、SQ38FD/IIの場合と同じです。

- 使用真空管／12A×7(6), 12AU7(1)・出力電圧／定格2V, 最大15V(歪率0.3%)
- 出力インピーダンス／550Ω
- 全高調波歪率／0.06%以下(出力2V)
- 周波数特性／15～40,000Hz(-1dB)
- 入力感度／phono-1～2;1.2mV, aux-1～3;120mV(可変), aux-2;120mV, mic;0.5mV
- SN比／phono;64dB以上, aux;77dB以上, mic;60dB以上
- トーンコントロール／LUX方式NF型適曲点切換付
- 付属装置／高低各フィルタ、ローフリーエンサー・トリマ、アッテネータ、テープモニタ回路、テープダビング回路ほか

# STEREO INTEGRATED AMPLIFIER

アンプ作りでは絶対の自信を持つているラックスですが、とりわけプリメインアンプには、円熟した製品が揃っています。それは現在の顔ぶれがそうであるばかりでなく、過去にさかのぼっても、つねに、その時々に、大きさにいえば時代を象徴する製品ガラックスの手によって提供されてきました。これから、そうありたいと願っています。オーディオという趣味を詰めてみると、結局は、すぐれた機器を、わが物として、これを愛用することにつきるわけですが、そのすぐれた機器の条件は、必ずしも単純なものではなく、さまざまな要素の集合から成り立っています。音質がよいことも、特性が立派であることも、使い勝手がよいことも、当然、その要素に数えられます。しかし、これにつきるものではないでしょう。ラックスのアンプがその答になれば幸いです。



## L-100 トランジスタ・プリメインアンプ

トランジスタを107石投入しているから言うのではありませんが、プリメイン型としては、桁はずれの高級機です。出力からみてもうですが、それ以外のあらゆる特性が超プリメイン級になっています。もともとプリメイン型はラックスの一一番得意とする形式ですが本機はその集大成ともいえる製品です。これ以上のものを求める人には、やはりラックスのセパレート型をお奨めします。

●構成／トランジスタ(107), ダイオード(24), ツエナ・ダイオード(6), パリスタ(13) LED(1) ●連続実効出力／110W+110W(8Ω両ch同時動作) ●全高調波歪率／0.03%以下(8Ω, 110W) ●混変調歪率／0.03%以下(8Ω, 110W, 60:7KHz=4:1) ●出力帯域幅／5~40,000Hz(-1dB) ●入力感度／phono-1~2;3mV(±5dB可変), tuner: 180mV(可変), aux-1~2;180mV ●SN比／phono:65dB以上, tuner·aux:80dB以上 ●トーンコントロール／LUX方式NF型濁曲点切換付 ●付属装置／電子式タップミニュート回路, リニアアイコライザ, 高低各フィルタ, ローブースト回路, 入力感度調整(phono)ほか ●外形寸法／485(幅)×350(奥行)×175(高)mm ●重量／19kg

## L-309V トランジスタ・プリメインアンプ

従来のL-309の改訂版です。出力は5Wアップして80W×2になります。電気回路の方は科学の進歩と直接関係するものですから完全に一新されています。が、意匠の方はよく見れば随所に修正が見られるといつていいです。本当に魅力のあるアンプは一朝一夕に出来るものではありません。そこで、一つのモデルに対して執念深く改良を加えてきたわけです。その意味では、ラックスの代表作の一つです。

●連続実効出力／80W+80W(8Ω, 両ch同時動作) ●全高調波歪率／0.03%以下(8Ω, 80W) ●混変調歪率／0.03%以下(8Ω, 80W, 60Hz:7KHz=4:1) ●出力帯域幅／5~40,000Hz(0.1%, -3dB) ●入力感度／phono-1~2;2.5mV, tuner: 150mV(可変), aux-1~2;150mV ●SN比／phono:62dB以上, tuner·aux:80dB以上 ●トーンコントロール／LUX方式NF型濁曲点切換付 ●付属装置／リニアアイコライザ, 高低各フィルタ, 入力インピーダンス調整ほか ●外形寸法／485(幅)×300(奥行)×165(高)mm ●重量／15.5kg

## L-505V トランジスタ・プリメインアンプ

従来のL-507の改訂版ということですが、この500シリーズの初版は昭和43年のS Q505ですから、すでに5版目になります。出力はこれも5Wアップして55W×2になりました。永年磨きあげてきた意匠とのバランスを持つべく、できる限りの技術と素材を駆使して新たに修正を加えたということです。回路的には、ノワーファンプの“M-6000”, コントロールアンプ“C-1000”で開発された技術が導入されています。

●連続実効出力／55W+55W(8Ω, 両ch同時動作) ●全高調波歪率／0.03%以下(8Ω, 55W) ●混変調歪率／0.03%以下(8Ω, 55W, 60Hz:7KHz=4:1) ●出力帯域幅／5~50,000Hz(0.1%, -3dB) ●入力感度／phono-1~2;2.5mV, tuner·aux-1~2;150mV ●SN比／phono:62dB以上, tuner·aux:80dB以上 ●トーンコントロール／LUX方式NF型濁曲点切換付 ●付属装置／入力インピーダンス調整, 高低各フィルタ, ローブースト, テープダビング回路ほか ●外形寸法／450(幅)×268(奥行)×160(高)mm ●重量／11.5kg

# STEREO INTEGRATED AMPLIFIER



## L-85V トランジスタ・プリメインアンプ

3機種ある80シリーズのプリメインアンプの中で最高位にランクされる製品。出力は80W×2と十分すぎるほどですが、量だけでなく質の向上を狙っています。音質向上のための回路技術、新しい顔となるべき意匠、これらをつなぎ合わせる機構など、コントロールアンプ“C-1000”、パワーアンプ“M-6000”などと同じ考え方、取り組み方をしています。手元に置いて使い込むほど愛着が生まれてくるアンプです。

- 連続実効出力／80W+80W(8Ω, 両ch同時動作) ●全高調波歪率／0.05%以下(8Ω, 80W)
- 混変調歪率／0.05%以下(8Ω, 80W, 60Hz:7KHz=4:1) ●出力帯域幅／10~40,000Hz(0.1%, -3dB)
- 入力感度／phono-1~2;2.5mV, tuner:200mV(可変), aux-1~2;200mV
- SN比／phono:62dB以上, tuner·aux:84dB以上
- トーンコントロール／LUX方式NF型湾曲点切換付
- 付属装置／リニアイコライザ、高低各フィルタ、アッテネータほか
- 外形寸法／450(幅)×310(奥行)×160(高)mm
- 重量／14kg

## L-80V トランジスタ プリメインアンプ

プリメイン型の中堅機種をラックスから、という方のために開発した製品。この価格帯には各社の代表機種がひしめき合っていますが、特性、音色、デザイン、仕上げ、あらゆる面で一味ちがうところを提供したいというのが、そもそもの発想でした。結果は実地にお確かめください。知的でしかも重厚なスタイル、これも本機で初めてお目にかけるラックスの新しい顔です。

- 連続実効出力／50W+50W(8Ω, 両ch同時動作時) ●全高調波歪率／0.05%以下(8Ω, 50W)
- 混変調歪率／0.05%以下(8Ω, 50W, 60:7KHz=4:1) ●出力帯域幅／5~40,000Hz(0.05%, -3dB)
- 入力感度／phono-1~2;2.5mV, tuner·aux-1~2;120mV
- SN比／phono-1~2;65dB以上, tuner·aux-1~2;80dB以上
- 付属装置／高低各フィルタ、ローブースト＆ラウドネス・スイッチ、テープダビング・スイッチほか
- 外形寸法／450(幅)×300(奥行)×160(高)mm
- 重量／10.1kg

## L-80 トランジスタ プリメインアンプ

かつての“SQ507X”と“SQ505X”的関係といえば思い出していただけるでしょうか。“L-80V”的姉妹機でチャンネル当たり出力が10W小さくなっています。それ以外にこれといつて両者にちがいはありません。“色ちがい”ではなく“出力ちがい”というところです。40Wの出力が少な過ぎるとは思えませんが、世の中は出力に過敏のようですから、その点も考慮した次第です。

- 連続実効出力／40W+40W(8Ω, 両ch同時動作時) ●全高調波歪率／0.1%以下(8Ω, 40W)
- 混変調歪率／0.1%以下(8Ω, 40W, 60:7KHz=4:1) ●出力帯域幅／10~40,000Hz(0.1%, -3dB)
- 入力感度／phono-1~2;2.5mV, tuner·aux-1~2;120mV
- SN比／phono-1~2;63dB以上, tuner·aux-1~2;78dB以上
- 付属装置／高低各フィルタ、ローブースト＆ラウドネス・スイッチ、テープダビング・スイッチほか
- 外形寸法／450(幅)×300(奥行)×160(高)mm
- 重量／9.6kg



## L-606 トランジスタ・プリメインアンプ

回路的にはできるだけ結合コンテンサーを省略しようという方針をとり、信号はイコライザ一部よりバッファー一段を介するだけでメインアンプ部に入る回路構成を採用しています。パネル上部には回路のロックダイアグラムが配され、テープタaping、トーンコントロール、フィルターなどの信号経路の変化が矢印で示されるようになっています。従来のラックス調から一步踏み出した意欲的な製品です。

- 連続実効出力／40W+40W(8Ω両ch同時動作,1KHz),35W+35W(8Ω両ch同時動作,20~20KHz)●全高調波歪率／0.05%以下(8Ω,35W)●混変調歪率／0.06%以下(8Ω,35W,60.7KHz)●出力帯域幅／10~50,000Hz(-3dB,0.1%)●入力感度/ phono -1~-2.2dB, tuner·aux -1~-2.19dB●SN比/phone:65dB,tuner·aux :76dB●トーンコントロール／LUX方式NF型選曲点切換付●残留雜音/0.5mV以下●付属装置/シグナル・インジケーター,高低各フィルタ,ローパースタ, テーブラピング回路ほか●外形寸法/443(幅)×273(奥行)×153(高さ)mm●重量/9.3kg



## L-30 トランジスタ・プリメインアンプ

回路面でも機能面でも、従来のプリメインアンプのあり方を検討し直し、実質的な立場から省略できるところは省略して、価格に対する音質のよさを追求しています。極めてシンプルな形に仕上げられた、これもラックスのプリメインアンプの一つです。煩わしいことを考えずに、気軽によい音質で音楽を楽しむという人には、うってつけのアンプです。

- 連続実効出力／35W+35W(8Ω, 両ch同時動作) ●全高調波歪率/0.05%以下(8Ω, 35W)
  - 混変調歪率/0.1%以下(8Ω, 35W, 60Hz : 7KHz = 4:1) ●出力帯域幅／10～50,000Hz (0.1%, -3dB)
  - 入力感度／phone:2.6mV, tuner:aux-1:-2; 15mV ●SN比／phone:64dB以上, tuner:aux:83dB以上 ●トーンコントロール／LUX方式NF型
  - 付属装置／高低各フィルタ, ラウドネスコントロール, テーピングモニタ,スピーカー切換ほか ●外形寸法／440(幅)×224(奥行)×161(高さ)mm
  - 重量／7.5kg



**SQ38FD / II** 管球式 プリメインアンプ

〈38シリーズ〉の改良型、といつても、定格の数字の上には別段変更はありません。もし、音質の違いを聞き分けられるとすれば、それは、カップリング・コンデンサにフィルム型を採用した効果かもしれません。外観の区別は並べてみればわかります。バネルがブロンズになり、ツマミが少し平たくなっています。洗練の度を加えていると言いたいのですが、これは見る人の判断で決まるでしょう。

- 連続実効出力／30W+30W(4Ω, 8Ω, 16Ω) ●全高調波歪率／0.7%以下(定格出力時) ●周波数特性／20~20,000Hz(-1dB以内) ●入力感度／phono-1~-2;2.2mV, aux-1~-2~-3;200mV ●入力インピーダンス／phono-1~-2;50KΩ, aux-1~-2~-3;200KΩ ●S/N比／phono:60dB以上, aux:70dB以上 ●トーンコントロール／LUX方式NFT型調点曲切付 ●残留雜音／1mV以下 ●付属装置／高低各ノイズフィルタメイン部入力レベルセレット, テープモニタースイッチ及び端子, DIN規格テープコードフタほか ●外形寸法／476(幅)×335(奥行)×190(高さ)mm ●重量／18kg

# FM STEREO TUNER

# AM/FM STEREO TUNER

アンプに比べると、量的にやや目立ちにくい存在になっていますが、FMチューナーにも、やはり、ラックスならではの洗練された個性と老巧な設計から成る、魅力的な製品が控えています。FMチューナーに要求される技術は、アンプとは若干性格的に異りますが、しかし、その本来の役割はやはり音楽の再生ということですから、単に感度や選択度が優秀であるというだけでは完全とはいえません。ラックスのチューナーが音質的にまさっているのは、設計の段階ですでに、目標をこの点に絞っているからです。もちろん、素材の選択もこの観点から行っています。もうひとつの特徴はスタイルです。チューナーには、ダイヤル面という見せ場がありますので、よくも悪くも作者のセンスが如実に現われてきます。これはまだ選ぶ側にも言えることでしょう。



## T-110 FM専用ステレオ チューナー

回路的にも意匠的にも、また、機構的にも、一歩進んだ斬新な形にまとめあげられています。“本当にチューナーらしいチューナーが欲しい”という人のために開発されているわけです。回路的にはすべて音質の向上を目指し、意匠的にはチューナーにふさわしい薄形に仕上げ、機構的にはメーターとダイアルを一体化するなど、従来の概念を打ち破った、これからのチューナーといえるでしょう。

- 構成／MOS型FET(2), ジャンクション型FET(1), I・C(6), トランジスタ(20), ダイオード(14), バリスタ(1), LED(1) ●IHF実用感度／ $1.7\mu V$  ●SN比50dB, RF入力感度／ $2.8\mu V$  (mono),  $36\mu V$  (stereo) ●アルティメイトSN比／77dB (mono), 72dB (stereo) ●2信号選択度／70dB ●振幅変調抑圧度／53dB ●キャップチャ比／1.3dB ●イメージ比／110dB ●IF妨害除去比／110dB ●周波数特性／20～15,000Hz ●全高調歪率／0.06% (mono, 1KHz), 0.08% (stereo, 1KHz), 0.1% (stereo, 20～5KHz), 0.3% (stereo, 10KHz) ●セパレーション／48dB (1KHz) ●出力電圧／1V ●付属装置／ディレーミューティング回路ほか ●外形寸法／483(幅)×243(奥行)×114(高)mm ●重量／7.6kg

## T-300V AM/FMステレオ チューナー

このチューナーではとくに歪特性を重視して、それに関連する位相の直線性を問題にしています。一般に人気の高いセラミックフィルターやクリスタルフィルターを避けて、リニアフェイズ・ロックフィルターを採用しているのもそのためです。FM放送をプログラムソースとして尊重される方にお奨めしたい製品です。意匠的な変更が加えられ、洗練の度を増しています

- 構成／MOS型FET(2), ジャンクション型FET(1), シリコン・トランジスタ(38), I・C(4), ダイオード(26) ●IHF実用感度／FM:  $1.7\mu V$ , AM:  $250\mu V$  / m ●2信号選択度／FM: 7dB ●振幅変調抑圧度／FM: 53dB ●キャップチャ比／FM: 1.5dB ●イメージ比／FM: 95dB, AM: 80dB ●IF妨害除去比／FM: 100dB, AM: 80dB ●周波数特性／FM: 20～15,000Hz ●全高調歪率／FM: 0.2% ●SN比／FM: 75dB, AM: 48dB ●出力電圧／FM: 1.7V, AM: 400mV ●付属装置／ミューティング回路ほか ●外形寸法／485(幅)×281(奥行)×155(高)mm ●重量／9.3kg

## T-550V AM/FMステレオ チューナー

T-300のいわば姉妹機です。一目みればおわかりのように、まずスタイルが似ています。管球時代のWZ30以来、ラックスのチューナーは、つねにスタイルも性能と同じ程度に凝つているのが特徴です。本機の品位から考えて、これはお買得のチューナーですが、すでに皆様よくご存知のようで、ちょっとしたベストセラーになっています。T-300Vと同じく、意匠的な変更が加えられています。

- 構成／FET(1), I・C(3), シリコン・トランジスタ(25), ダイオード(15) ●IHF実用感度／FM:  $1.8\mu V$ , AM:  $270\mu V$  / m ●2信号選択度／FM: 70dB ●振幅変調抑圧度／FM: 53dB ●キャップチャ比／FM: 1.3dB ●イメージ比／FM: 95dB, AM: 80dB ●IF妨害除去比／FM: 95dB, AM: 75dB ●周波数特性／FM: 20～15,000Hz ●全高調歪率／FM: 0.3% ●SN比／FM: 70dB, AM: 45dB ●出力電圧／FM: 1.5V, AM: 550mV ●付属装置／ミューティング回路, FMノイズフィルタ, マルチバス検出端子ほか ●外形寸法／450(幅)×268(奥行)×160(高)mm ●重量／7.5kg



## T-88V AM/FMステレオ チューナー

プリメイン型の“L-80V”“L-80”と同サイズのチューナーです。どちらかといえば、音質重視型、FM放送を主体に楽しもうという人には、もってこいの製品です。デザイン的には、いうまでもなく上記のプリメインアンプにピッタリです。最新型ですから回路的にも素材的にも最先端の技術が導入されており、その点でも信頼のできるチューナーになっています。

●構成／FET(2), I-C(2),トランジスタ(24),ダイオード(22), L-E-D (4) ● IHF実用感度／FM;2μV, AM;230μV/m ● 2信号選択度／FM;60dB(±400kHz) ● 振幅変調抑圧度／FM;50dB ● キャブチャ比／FM;1.8dB ● イメージ比／FM;90dB, AM;150dB ● IF妨害除去比／FM;90dB, AM;40dB ● SN比／FM;70dB, AM;50dB ● 周波数特性／FM;20~15,000Hz ● 全高調波歪率／FM;0.3% ● 出力電圧／FM;1.6V, AM;450mV ● 付属装置／FMミューティング回路, FMノイズフィルタほか ● 外形寸法／450(幅)×300(奥行)×160(高)mm ● 重量／7kg



## T-660 AM/FMステレオ チューナー

アンプのL-60型と一緒に発表したチューナーです。スタイルに共通性がありますから、この両者はペアとして扱われると思いますが、どちらがどちらに依存している、という関係ではありませんから、単独でも活躍することを期待しています。回路構成を確かめて頂くとよくわかるのですが、きわめてオーソドックスな性能追求を行っています。その点でも見逃せないチューナーです。

●構成／FET(2), I-C(2),シリコン・トランジスタ(24),ダイオード(21) ● IHF実用感度／FM;2μV, AM;230μV/m ● 2信号選択度／FM;60dB ● 振幅変調抑圧度／FM;50dB ● キャブチャ比／FM;1.8dB ● イメージ比／FM;90dB, AM;50dB ● IF妨害除去比／FM;90dB, AM;40dB ● 周波数特性／FM;20~15,000Hz ● 全高調波歪率／FM;0.3% ● SN比／FM;70dB, AM;50dB ● 出力電圧／FM;1.6V, AM;450mV ● 付属装置／FMミューティング回路, FMノイズフィルタ, マルチバス検出端子ほか ● 外形寸法／443(幅)×273(奥行)×153(高)mm ● 重量／6.7kg



## T-33 AM/FMステレオ チューナー

プリメインアンプL-30と同サイズのチューナーです。もちろん、ラックスのチューナーに共通の音質重点主義をとっています。意匠的にはL-30にピッタリですが、独立したチューナーとして十分に通用する内容をもっています。回路的にも素材的にも最先端の技術が採り入れられていますので、この点からも信頼のできるチューナーです。

●構成／FET(1), I-C(2),シリコン・トランジスタ(13),ダイオード(11), LED(2) ● IHF実用感度／FM;2μV, AM;200μV/m ● 2信号選択度／FM;50dB ● 振幅変調抑圧度／FM;50dB ● キャブチャ比／1dB ● イメージ比／FM;50dB, AM;50dB ● IF妨害除去比／FM;70dB, AM;40dB ● 周波数特性／FM;20~15,000Hz ● 全高調波歪率／FM;0.1%(mono, 1KHz), 0.2%(stereo, 1KHz) ● SN比／FM;70dB, AM;50dB ● 出力電圧／FM;1V, AM;0.33V ● 付属装置／シグナル・インジケーター, センターチューニング・メーターほか ● 外形寸法／440(幅)×218(奥行)×161(高)mm ● 重量／4.5kg

# DIRECT-DRIVE TURNTABLE

オーディオメーカーとしてのラックの課題は、アンプ、チュナーのほかにレコードプレーヤーにも傑作を加えることだと考えていましたが、素材としてのモーターとその駆動方式が、ほぼ完成期に達したと判断できるまでになりましたので、プレーヤーの開発に踏み切ったわけです。

プレーヤーの開発にあたって、なによりも重視したのは、この恵まれた素材を生かし切ることでした。真にオーディオを解するハイセンスの愛好家を対象に、商品化のための妥協を一切排して、作りあげました。DDプレーヤーそのものには、もはや新味はなくなっています。問題はこれから先にあるわけです。



## PD121 ダイレクトドライブ・ターンテーブル(アーム別)

ブラシレスDCサーボ・モーターを素材として、いかに魅力的なプレーヤーを創り上げるかがこのプレーヤーの目標でした。駆動部とトーンアーム部の直結化のためのオール・ダイキャスト製の強固なシャーシー構造、すべての条件を考えあわせたうえで決定された重量級ターンテーブル、防振対策の完璧化を図った3重構造のインシュレーターなど、ハイセンスのオーディオ愛好家を十分に満足させる仕上りです。一度、現物で確かめてください。

●駆動方式／ダイレクトドライブ方式 ●モーター／20極60スロット・ブラシレスDCサーボモーター ●ターンテーブル／30cmアルミダイキャスト製(重量2.5kg) ●回転数／33 $\frac{1}{3}$  rpm・45 rpm ●回転数調整範囲／±4% ●SN比／60 dB以上 ●ワウ＆フランジャー／0.03%以下(W・R・M・S) ●付属装置／4mm厚板貼り合せアクリルカバー、3重構造のインシュレーター(高さ調整可能)、ブラックライト採用による速度表示式ストロボスコープ ●外形寸法／472(幅)×160(高)×372(奥行)mm ●重量／14kg



## PD131 ダイレクトドライブ・ターンテーブル(アーム別)

PD121との大きな違いは、素材としてのモーターです。ハウリングや床振動に強いダイキャスト製のシャーシー構造、スリムでコンパクトなデザイン、精密級バヨネット式アーム台、回転数を数字で直読できるブラックライト採用のストロボスコープ、密着性のよいセーム革に準ずるレコードシートなど、PD121とまったく同じです。どこを探しても、商品化のための妥協は見当らないはずです。

●駆動方式／ダイレクトドライブ方式 ●モーター／8極24スロット・ブラシレスDCサーボモーター ●ターンテーブル／30cmアルミダイキャスト製(重量2kg) ●回転数／33 $\frac{1}{3}$  rpm・45 rpm ●回転数調整範囲／±4% ●SN比／60 dB以上 ●ワウ＆フランジャー／0.03%以下(W・R・M・S) ●付属装置／4mm厚板貼り合せアクリルカバー、3重構造のインシュレーター(高さ調整可能)、ブラックライト採用による速度表示式ストロボスコープ ●外形寸法／472(幅)×160(高)×372(奥行)mm ●重量／12kg

# DIRECT-DRIVE PLAYER SYSTEM



## PD282 ダイレクトドライブ・プレーヤーシステム

これはPD121/131の流れをくむ、本格派のDDプレーヤーシステムです。ACサーボ・モーターを採用した高性能駆動部、ハウリングに強い強固なキヤビネット、高感度設計のユニバーサル型トーンアーム、使い易いレバー2アクションのスイッチ機構など、すべてにわたって、細心の注意が払われています。音の入口には、音質的に特徴的にも定評のあるシューのMM型を採用しています。

- 駆動方式／ダイレクトドライブ方式 ● モーター／ACサーボ6極コンデンサー型 ● ターンテーブル／30cmアルミダイキャスト製 ● 回転数／33⅓ rpm・45 rpm ● 回転数調整範囲／±4% ● SN比／60 dB以上 ● ワウ&フラッター／0.03%以下(W.R.M.S.)
- 付属装置／ユニバーサル型スタティック・バランス式トーンアーム、シュー・ムービングマグネット型カートリッジ、ダストカバー、インシュレーター、ストロボスコープ ● 外形寸法／471(幅)×175(高)×351(奥行)mm ● 重量／10kg



## タッカム株式会社

本 社：大阪市西成区長橋1丁目8-31 ☎ 06(632)0031 ₪557  
東京支社・営業所：東京都文京区湯島2丁目23-13 ☎ 03(833)7691 ₪113  
大 阪 営 業 所：大阪市浪速区東閑谷町1丁目1 ☎ 06(643)1321 ₪556  
福 岡 営 業 所：福岡市博多区博多駅前2丁目19 ☎ 092(431)7528 ₪812  
広 島 営 業 所：広島市楠木町1丁目7-10 ☎ 0822(92)2281 ₪733

名 古 屋 営 業 所：名古屋市名東区藤見ヶ丘46 ☎ 052(771)1524 ₪465  
松 本 営 業 所：松本市双葉町2022 ☎ 0263(26)4015 ₪390  
横 浜 営 業 所：横浜市中区不老町3-13-12 ☎ 045(662)3077 ₪232  
仙 台 営 業 所：仙台市太白区1丁目3-3 ☎ 0222(94)6262 ₪983  
札 幌 営 業 所：北海道札幌市西区琴似1条4丁目 ☎ 011(641)2271 ₪063

# SERVICE STATION

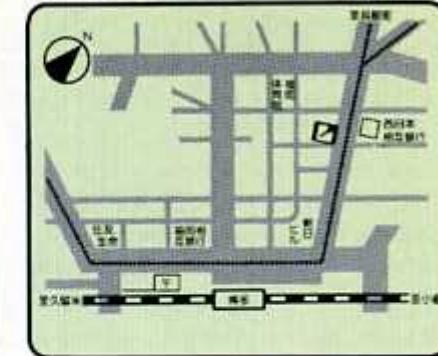
東京支社・営業所・サービスステーション



大阪営業所・サービスステーション



福岡営業所・サービスステーション



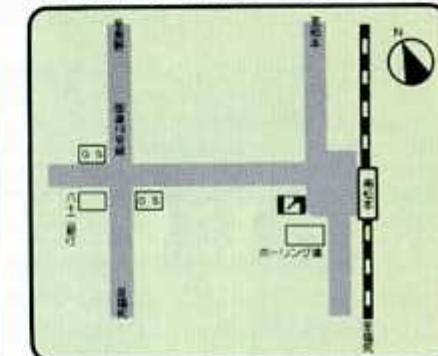
広島営業所・サービスステーション



名古屋営業所・サービスステーション



松本営業所・サービスステーション



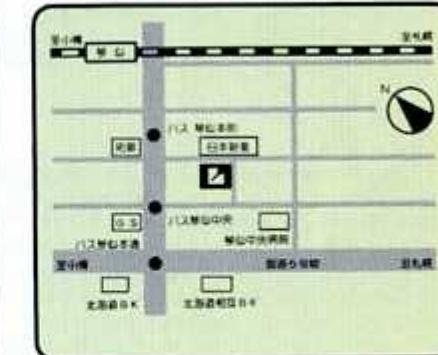
横浜営業所・サービスステーション



仙台営業所・サービスステーション



札幌営業所・サービスステーション



ラックス製品のお求めは信用ある当店で



元々久保株式会社

本社	大阪市西成区長橋1丁目8-31	06(632)0031	平5
東京支社・営業所	東京都文京区湯島2丁目23-13	03(833)7691	平11
大阪営業所	大阪市西淀川区東閘谷町1丁目1	06(643)1321	平5
福岡営業所	福岡市博多区早野駅前2丁目19号	092(431)7528	平5
鳥取営業所	鳥取市横木町1丁目7-10	0825(21)2281	平7

名	吉屋營業所	名古屋市名東区藤兒光丘4-6	052(771)1524	〒466
松	本 营業所	松本市西瓦町20-2	052(261)4015	〒390
横	浜 营業所	横浜市中区不老町3-13-2	045(662)3077	〒231
仙	台 营業所	仙台市大和町1丁目3-3	022(2)562-5622	〒958
札	幌 营業所	札幌道札幌市西区琴似1条4丁目	011(641)2271	〒062